

# 磐城新聞

大正十三年五月二十五日  
 休刊 大正十三年五月二十三日  
 定例 二銭 郵税 十銭  
 廣告料 二行半 指定 十銭  
 印刷所 磐城新聞社  
 發行所 磐城新聞社

## 鈴木喜三郎論

わかみや生

◎その政治的未來が何ぞ、  
 あるにせよ内相としての鈴木  
 木氏は、内閣制度以來最も  
 深く國民的記憶せらるるべ  
 き一國の事業を成した人だ  
 人、各々短所あり、不足か  
 敷へて責を立、たれば入閣  
 通有の弱點は又容易に鈴木  
 氏にも見られる。然るに  
 此の數年來走馬燈の如く、  
 變つては歴代の内相が或は  
 威の爲、或は怯懦の爲に  
 或は無責任その物の性や  
 の爲に手を下すことを忌む  
 (居た、所謂其産黨事件を  
 明らみへ出したことは内相  
 としての鈴木氏の功績に歴  
 史的にしたものである。固  
 より共産黨事件として未  
 了である。未了は如何に未  
 了にせよ此の主題、特に研  
 究した人から観れば、實際  
 的見地に於て此點は絶對  
 題とならぬ、何となれば  
 モスクワ政府の著音儀の  
 物が所在に騒音を傳へて  
 るの事實は餘りに明白であ  
 るからだ。

◎共産黨事件の未了は内  
 相としての鈴木氏、功績、  
 對して、此の如く、殆ど無  
 係であるが、その内相の後  
 任問題には密接な繋がり  
 がある。内相、後任に政界  
 公例として或は極力分配の  
 黨内の情實も多く左右さ  
 ることあるものであらう。  
 或は首相其人の眼識と手腕  
 とに大に制限されること  
 あり、成行さむものであら  
 ぬ。如何なる理由が如何なる  
 式に於て成立するにせよ、  
 鈴木氏の後任に、一、種、  
 政治條件がある。即ち、  
 後任は鈴木氏、同等、或  
 徹底的に、共産黨事件に  
 徹底的に、人であること  
 だ。

◎共産黨事件の中心に、  
 帝國大學である。帝國大學  
 一掃するの機會は幸ひに  
 鈴木氏の後任に遺された  
 帝國大學は、

## 講談

一人の門弟が取次いだ  
 一掃者は中國の浪人高橋  
 春の横柄からひたいをか  
 いたつて引かれて何かに  
 引かれて引かれて何かに  
 引かれて引かれて何かに  
 引かれて引かれて何かに

拙者に恐れをいだきればの場の様子と思ひをつたが  
 逃げ隠れすべきはするに、いよ、我を討たんと所存と  
 左様なこともなく在宿に、見える何れどの事やららん  
 ふは不審である在宿が、實に、片づしより切つて捨てん  
 ずれば必ず車法なる計策、正春は思案を定め八方へ  
 めぐるらしを、に相違ない、氣をくばるとも、又もやふ  
 れはいよ、油断がなら、まの越よりビニツと矢を  
 切つて放す正春は左手に、  
 切つて放す正春は左手に、  
 切つて放す正春は左手に、  
 切つて放す正春は左手に、



正春は萬一の用意と偽名、ち上らんとする處へ早くも  
 二の矢がビニツととんで、  
 二の矢がビニツととんで、  
 二の矢がビニツととんで、  
 二の矢がビニツととんで、

平田屋  
電話五七

痔の最高内服薬  
 ダイサン錠  
 チクノール錠  
 平野五丁目  
 山野邊藥局

**廣 告**  
 植田町  
**岡田炭鑛植田出張所**  
 電話二十九番  
**石炭小賣販賣に就いて**  
 當炭鑛經營するに就いて植田町に出張所を設  
 置し地方販路を計畫しました所、地所、地所、地所、  
 置し地方販路を計畫しました所、地所、地所、地所、  
 置し地方販路を計畫しました所、地所、地所、地所、

**生花教授**  
 池ノ坊流 生花を懇切丁寧な御  
 教授いたします、お遊びがてら御出  
 で下さい  
 平町五丁目(釜屋横町)  
**須藤まつ**の

産科婦人科主任トシテ  
 醫學士野秋善直新任ス  
**赤心堂病院**  
 平町字田町(電話四七五)  
 院長 新妻 由五郎  
 外科、耳鼻科、泌尿科  
 産科、婦人科 主任 野秋 善直  
 内科 主任 小林 四郎  
 光線科 主任 木市 寅下

**胃腸**  
 科 内二十  
 病 腸 指  
**毒核**  
 皮膚病 淋病  
**専門**  
 部 科 外 部 科 内  
 電話七〇  
**院病村松** 町南平

**日東のラジオ**  
 最新高級の  
**ラジオ製造販賣**  
 並に部分品提供  
 當分の間 奉仕的破格値段  
 三球セツト取付共  
 A 百貳拾五圓  
 B 百圓  
 C 七拾圓  
 御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切  
 御相談に應じます。  
 平町白銀町  
**日東商會**  
 電話四二八番

**食用鳩** (カルノノ)  
 フリユウセキセイ  
 アカボタンインコ  
 ダルマインコ  
 白文鳥  
 赤文鳥  
 小鳥  
 斑鳥  
 斑鳥  
 斑鳥  
 斑鳥  
 斑鳥  
 平町田町本通り  
**ベニヤ小鳥店**

**木美白粉**

**最高の白粉**

どなたの肌をも自動的に美化し、  
 氣品と艶麗に満ちた化粧映のする  
 ホシ美白粉こそ、絶対無敵にて、  
 衛生上よりも、最高の白粉と賞美  
 されるものであります。

ホシ美白粉  
 ホシ美白粉  
 ホシ美白粉  
 ホシ美白粉  
 ホシ美白粉

# 着々と進歩し行く 平町の水道擴張

明年度より二年繼續で  
配水池の改造

町内諸河川は、逐年發達膨脹、擴張と共に現在八幡小橋  
池を以てゐる市街地、配水池池底を約十五間上  
に引上げ、現行の上水道水塔、工費を計行へば、計  
一、三分、更に、一個三分、計中、約該設計費、現  
倍加し、二個六分増水案、既に從前百餘噸の高差方  
樹、既に、我國水道界の  
者宿茂庭、技師を顧問  
、招き、地盤調査をなし、  
、計費を計行して着々進歩  
し、昭和四、五年の二ヶ年繼  
續、事業に依つて明春起工す  
べく、本年度決定を見た、更  
らに町當局は、舊城跡を面  
、高差に於ける水道を以、給  
水不能の爲め、高差方面  
に火災でもあつた場合に消  
火栓、放水設備は何等の効  
もない  
實狀に鑑み、前記水塔  
、石城跡、舊城跡、定期馬  
、十四日、警備、△十五日渡  
、△十六、七、八、八上、遠  
、野△十九日から廿一日迄  
、入道野△廿二日、石住△廿  
三日、貝治△同日、荷路△廿  
、廿四、五日、田入△廿六日  
、山内

# 圓滿解決を見た 重内炭礦争議

會社の回答内容  
回答を一日繰り上げて

對城炭礦争議に係る重内炭礦會社側から前記二氏の外所  
礦の争議事件は、其、後、龍、長、酒、井、一、郎、坑、内、主、任、隈  
問題に就いて、本、社、指、導、長、國、際、民、生、會、社、務、務、所、に  
仰ぐべく、忽ち東京に、酒、井、一、郎、氏、を、派、遣、し、争、議、代、表、片、寄、寄、七  
、礦、業、所、長、は、八、日、夜、歸、礦、九、下、出、田、山、本、太、郎、福、田、其、作、  
、至、り、本、社、指、導、長、國、際、民、生、會、社、務、務、所、に、大、石、雄、一、氏、を、派、遣、し、  
、城、炭、礦、課、長、等、も、隨、同、し、大、石、雄、一、氏、對、し、會、社、指、導、長、國、際、民、生、會、社、務、務、所、  
、十日の回答、一、九、日、夜、歸、礦、一、九、日、夜、歸、礦、一、九、日、夜、歸、礦、  
、答、を、發、する、事、に、關、し、の、如、き、回、答、に、依、り、茲、に、圓、滿、の  
解決を見に至つた

# 千秋樂を舞ひつ 人桂となつた丹後老

平城跡丹後澤

△平、北、備、令、一、般、中、國、で、警、備、中、の、重、城、大、館、に、着、任、  
、跡、丹、後、澤、の、物、語、を、聞、き、し、一、隈、勝、一、郎、氏、を、遣、り、  
、慶、長、五、年、下、分、日、の、大、舞、臺、新、領、主、島、原、政、治、は、亦、武、器、政、  
、脚、ヶ、原、一、郎、氏、と、同、方、策、の、手、初、め、と、し、赤、井、自、衛、隊、  
、の、敗、北、は、武、門、に、非、難、を、受、け、つ、た、一、隈、勝、一、郎、氏、を、遣、り、  
、かく、敗、北、の、悲、運、を、堪、え、つ、た、が、後、發、つ、た、工、を、進、め、た、が、  
、城、跡、十八、萬、石、重、城、大、館、に、當、つ、て、後、澤、と、呼、ぶ、大、沼、澤、  
、條、一、足、竹、竹、實、の、面、に、登、り、上、り、一、九、三、九、の、時、に、  
、行、か、た、が、な、つ、つ、て、領、地、沒、收、を、受、け、つ、た、四、軒、町、に、向、つ、て、流、れ、  
、出、羽、川、由、利、川、に、移、り、た、が、  
、同、年、十、二、月、徳、川、旗、將、島、へ、へ、つ、て、大、沼、水、を、ま、づ、  
、居、新、太、郎、忠、政、の、ひ、ま、を、流、れ、口、を、閉、す、る、時、は、

# 貯炭減少 常磐地方の 四會商組合で 利用の宣傳

都販賣組合で

石城販賣利用組合四ヶ會商  
市場は今十三日から春開きの盛がおこつた程である、而  
、取、引、の、開、始、に、關、し、は、昨、年、三、萬、三、千、三、百、二、十、二、百、  
、に、開、始、し、た、が、今、年、の、取、引、に、關、し、は、昨、年、の、取、引、に、  
、比、し、増、加、し、た、と、見、ま、る、が、然、し、一、方、石、油、の、取、引、に、  
、關、し、は、昨、年、の、取、引、に、比、し、減、少、し、た、と、見、ま、る、  
、常、磐、地、方、の、貯、炭、の、取、引、に、關、し、は、昨、年、の、取、引、に、  
、比、し、減、少、し、た、と、見、ま、る、が、然、し、一、方、石、油、の、取、引、に、  
、關、し、は、昨、年、の、取、引、に、比、し、増、加、し、た、と、見、ま、る、  
、貯、炭、の、取、引、に、關、し、は、昨、年、の、取、引、に、比、し、減、少、し、  
、た、と、見、ま、る、が、然、し、一、方、石、油、の、取、引、に、關、し、は、  
、昨、年、の、取、引、に、比、し、増、加、し、た、と、見、ま、る、  
、貯、炭、の、取、引、に、關、し、は、昨、年、の、取、引、に、比、し、減、少、し、  
、た、と、見、ま、る、が、然、し、一、方、石、油、の、取、引、に、關、し、は、  
、昨、年、の、取、引、に、比、し、増、加、し、た、と、見、ま、る、

# 主人の金と費ひ込み 自殺覚悟の若者

平署へ自首

警署に於いては、主人の金と費ひ込み、自殺覚悟の若者、  
、平署へ自首したと見られる、  
、主人の金と費ひ込み、自殺覚悟の若者、平署へ自首したと  
、見られる、  
、主人の金と費ひ込み、自殺覚悟の若者、平署へ自首したと  
、見られる、

# 呆れ果てた 宿屋の客引

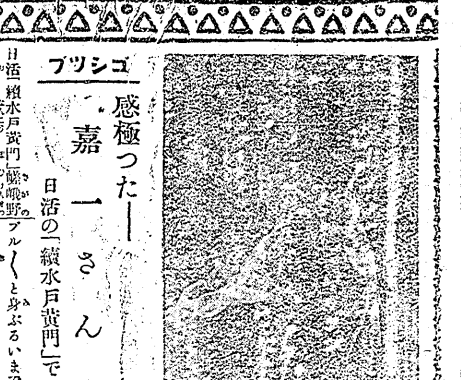
平署に怒り出す

宿屋の客引、平署に怒り出す、  
、平署に怒り出す、  
、宿屋の客引、平署に怒り出す、平署に怒り出す、  
、宿屋の客引、平署に怒り出す、平署に怒り出す、  
、宿屋の客引、平署に怒り出す、平署に怒り出す、

# 悪夢から 醒め罪の償

悪夢から醒め罪の償

悪夢から醒め罪の償、  
、悪夢から醒め罪の償、  
、悪夢から醒め罪の償、悪夢から醒め罪の償、  
、悪夢から醒め罪の償、悪夢から醒め罪の償、  
、悪夢から醒め罪の償、悪夢から醒め罪の償、



### 感極つた 嘉一さん

日活の録水戸黄門で、  
、感極つた、嘉一さん、  
、日活の録水戸黄門で、  
、感極つた、嘉一さん、

### 父は戀に敗れ 家は悲嘆の極

四十男の深み行く戀、  
、父は戀に敗れ、家は悲嘆の極、  
、四十男の深み行く戀、  
、父は戀に敗れ、家は悲嘆の極、

# 作家は悲嘆の極

作家は悲嘆の極、  
、作家は悲嘆の極、

作家は悲嘆の極、  
、作家は悲嘆の極、  
、作家は悲嘆の極、作家は悲嘆の極、  
、作家は悲嘆の極、作家は悲嘆の極、

# 記者團勝つ

記者團勝つ、  
、記者團勝つ、

記者團勝つ、  
、記者團勝つ、  
、記者團勝つ、記者團勝つ、  
、記者團勝つ、記者團勝つ、

# ヤニングスの 最後の命令

ヤニングスの最後の命令

ヤニングスの最後の命令、  
、ヤニングスの最後の命令、  
、ヤニングスの最後の命令、ヤニングスの最後の命令、  
、ヤニングスの最後の命令、ヤニングスの最後の命令、

# 小名濱賑ふ

小名濱賑ふ

小名濱賑ふ、  
、小名濱賑ふ、  
、小名濱賑ふ、小名濱賑ふ、  
、小名濱賑ふ、小名濱賑ふ、

# 川部村心中後聞

川部村心中後聞

川部村心中後聞、  
、川部村心中後聞、  
、川部村心中後聞、川部村心中後聞、  
、川部村心中後聞、川部村心中後聞、

# 石城醫師總會 新任役員決す

石城醫師總會新任役員決す

石城醫師總會新任役員決す、  
、石城醫師總會新任役員決す、  
、石城醫師總會新任役員決す、石城醫師總會新任役員決す、  
、石城醫師總會新任役員決す、石城醫師總會新任役員決す、

# 山田家の不幸

山田家の不幸

山田家の不幸、  
、山田家の不幸、  
、山田家の不幸、山田家の不幸、  
、山田家の不幸、山田家の不幸、

# 山田忠太郎 外親族一同

山田忠太郎外親族一同

山田忠太郎外親族一同、  
、山田忠太郎外親族一同、  
、山田忠太郎外親族一同、山田忠太郎外親族一同、  
、山田忠太郎外親族一同、山田忠太郎外親族一同、

# 長男秀夫儀

長男秀夫儀

長男秀夫儀、  
、長男秀夫儀、  
、長男秀夫儀、長男秀夫儀、  
、長男秀夫儀、長男秀夫儀、

銘酒醉の郷  
都々逸の賣行  
平信向大衆屋酒店が新設記念として試みた、銘酒  
、都々逸の特賣、其品質の良好なるを以て、  
、銘酒醉の郷、都々逸の賣行、

行樂の春  
御散策の御歸りに  
おモチヤのいづみやへ  
おモチヤの一番喜ぶ  
目新しいおモチヤヤ  
トモ可愛、人形が  
いつも豊富に陳列して御座います  
川口式ハーマニカ、大正琴、  
特價 提 俵！  
平驛前 いづみや玩具店

福島縣平町  
山崎合名會社  
電話(會務部)一〇二番  
電話(製造部)二七番  
振替東京一九七五番  
東京支店  
上野車坂町四三  
電話東京六八三三番  
振替東京六八三三番

山田忠太郎  
外親族一同  
長男秀夫儀去る四月十七日  
、脇筋病に罹り入院加療中の處再  
、度出血を起し益々身体衰弱に陥り  
、且つ數日前より口中に水腫露れ  
、底手術の途なく本日午前三時半死  
、亡致候生前は何れも御厚情を蒙り  
、深く御禮申上候茲に謹んで御通知申  
、上候、  
、昭和三年五月十三日、  
、追々葬儀、郷里若松市ニ於て執行可致候、  
、父、  
、山田忠太郎、  
、外親族一同